

七代目小川涪兵衛 植活の庭

「植活」は江戸時代中期、宝暦年間(1751-1764)から続いている造園業者の屋号で、当主は代々「小川涪兵衛」を襲名しています。明治維新後に西洋建築が導入されると、庭園も洋式が中心となっていきましたが、琵琶湖疎水の水や東山の景観を取り入れた七代目小川涪兵衛の手になる庭園は、「植活の庭」と呼ばれて、時の政財界人・文化人に受け入れられました。現存する壺鄰庵、平安神宮、円山公園などの庭園は国の名勝に指定されています。

植活の本を読む。

「植活七代目小川涪兵衛」 田畑みなお／写真 京都通信社 2008	K/629.21/Sh88/2(1107659904)
「對龍山荘 植活と鳥藤の技」 尼崎博正／監修 淡交社 2007	KE/629.21/Ta23(1108687201)
「『植活の庭』を歩いてみませんか」 11代小川涪兵衛／監修 白川書院 2004	K629.21/U38(1108205269)
「石と水の意匠 植活の造園技法」 尼崎博正／著 淡交社 1992	E/629.21/A43(1100352523)
「植活の庭」 尼崎博正／編 淡交社 1990	KE/629.21/A43(1100363538)
「小川涪兵衛」 山根徳太郎／著 小川金三 1965	289/024(1101631180)

植活の関連図書を読む。

「庭石と水の由来」 尼崎博正／著 昭和堂 2002	K/629.21/A43(1107183103)
「都林泉から新・庭園都市」京都への展開 平安建都千二百年記念協会 2004	K/629.21/H51(1107128744)
「京の意匠 庭園」 伊藤てい／著 光村推古書院 1982	K/629.21/189(1105962953)
「庭園の系譜」 京都市文化市民局文化部文化財保護課 2005	K/629.21/Ky6(1107152868)
「京都古寺の庭をめぐる」 学研 2005	K/629.21/Ky6(1108310085)
「中根金作京都名庭百選」 中根金作／著 淡交社 1999	K/629.21/N38(1101928958)
「京都とっておきの庭案内」 田中昭三／著 小学館 2007	K/629.21/Ta84(1108530997)
「京の庭」 山本建三／写真 光村推古書院 1989	K/629.21/Y31(1100391893)
「京都の庭」 矢内原伊作／文 淡交社 1977	K/629.21/Y54(1106197203)
「都ホテル葵殿庭園及び佳水園庭園」 尼崎博正／編 都ホテル 1994	KE/629.21/A43(1106219320)

植活の雑誌記事を読む。

- ◆ 鈴木博之／著「庭師 小川涪兵衛とその時代」：月刊『UP』(東京大学出版会)に隔月で連載中。
- ◆ 「植活七代目 小川涪兵衛の世界 上、中、下」：『庭』192—193号(建築資料研究社 2010.3—2010.7)
- ◆ 猪瀬弘義／著「植活の庭における煎茶的発想」：『ランドスケープ研究』66巻5号(日本造園学会 2003.3)
- ◆ 尼崎博正／著「七代目小川涪兵衛(植活) 近代庭園の先駆者」：『ランドスケープ研究』58巻2号(日本造園学会 1994.12)
- ◆ 鈴木博之／著「明治から昭和にいたる数寄屋 植活の世界」：『建築雑誌』97巻1195号(日本建築学会 1987.7)
- ◆ 小野健吉／著「對龍山荘庭園における小川涪兵衛の作庭手法」：『造園雑誌』50巻5号(日本造園学会 1987.3)

植活の庭が掲載されている京都の庭園案内を読む。

「京の坪庭を楽しむ」 コロナ・ブックス編集部／編 平凡社 2006	K/629.21/H51(1108105964)
「京の名庭」 小笠雅章／監修 平凡社 2003	K/629.21/Ky5(1108129352)
「歴史と文化を楽しむ京都庭園ガイド」 京都歴史文化研究会／著 メイツ出版 2010	K/629.21/Ky6(1108624261)
「京都名庭園」 水野克比古／著 光村推古書院 2002	K/629.21/Mi96(1107044198)
「日本の庭京都」 中田昭／写真 ビエ・ブックス 2007	K/629.21/N43(1108407386)
「京都四季の庭園」 中田昭／写真・文 光村推古書院 2010	K/629.21/N43(1108871813)
「京都坪庭めぐり」 小笠雅章／監修・文 戎光祥出版 2004	K/629.21/O67(1108071539)
「京の庭」 重森千青／著 ウェッジ 2003	K/629.21/Sh28(1108160563)
「週刊日本庭園をゆく 第8号 京都洛東の名庭 2」 小学館 2005	K/629.1/Sh99/8(1107149351)
「京都の名園」 山本建三／写真 光村推古書院 1989	K/629.21/Y31(1100363686)
「庭」 山本建三／写真 光村推古書院 1995	K/629.21/Y31(1106119934)
「京都名庭」 横山健藏／写真 青幻舎 2008	K/629.21/Y79(1108463868)
「京都の庭園」 文化財保護法施行十周年京都記念会 1961	KE/629.21/B89(1106403650)
「京都坪庭」 水野克比古／著 光村推古書院 2001	KE/629.21/Mi96(1106930033)
「名庭 2」 水野克比古／写真 京都書院 1991	KE/629.21/Mi96/2(1100363611)
「京都名庭 2」 水野克比古／写真 京都書院 1987	KE/629.21/Mi96/2(1100392479)
「京都・壺庭」 重森完途／著 光村推古書院 1980	KE/629.21/Sh28(1105563751)

上記以外にも、京都の庭園を案内した本があります。

わが国最古の作庭書としては、平安時代後期から伝わる「作庭記」があり、以来明治に至るまで、数々の名庭が作られ、国の名勝にも指定されています。

昭和になると、京都在住の日本庭園の研究者であり、作庭家でもある重森三玲が「庭園史」を著しています。

「作庭記」及び「日本庭園史」を読む。

「作庭記」(「群書類従 第19輯」 塙保己一／編纂 続群書類従完成会 1979)	081/G94/1-19(1100754843)
「作庭記」 林屋辰三郎／校注(「日本思想大系 23」 岩波書店 1973)	121.08/N71/23(1100038619)
「平安時代庭園の研究」 森蘊／著 桑名文星堂 1945	629.21/MO45(1104068380)
「作庭記」 田村剛／著 相模書房 1964	629.21/TA82(1104068513)
「図解作庭記」 斎藤勝雄／[著] 技報堂出版 1979	629.21/Sa25(1104068430)
「『作庭記』の世界」 森蘊／著 日本放送出版協会 1986	629.21/MO45(1104068356)
「図解庭師が読みとく作庭記」 小笠雅章／著 学芸出版社 2008	629.1/O67(1108552447)
「日本庭園史大系」全35巻 重森三玲、重森完途／著 社会思想社 1973-78	E/629.21/Sh28/1~35
「日本庭園史図鑑」第7,10,11,13,14,17,19,21巻 重森三玲／著 有光社 1936-37	ヨ/356/285/7,10,11,13,14,17,19,21

上記以外にも日本庭園について書かれた本や重森三玲の単行本があります。

京都府立図書館 〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町9
 TEL(075)762-4655 FAX(075)762-4653
 H.P. <http://www.library.pref.kyoto.jp/>
 携帯 <http://www.library.pref.kyoto.jp/k>

京都府立図書館の開館時間
 火曜日～金曜日 9時30分～19時
 土・日曜日、祝日 9時30分～17時

背景の写真は植活が作庭した壺庭の庭です。